

平成29年度 第1回 府中市立学校通学区域審議会審議の概要

議事

- ・委員委嘱後、互選により、会長、副会長が選任された。
- ・諮問及び諮問の説明後、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

(○：委員、●：事務局)

- ：従来広谷町は、基本的には多くの方が、府中学園に来られて、平成25年から第一中に通う子供が増えてきたように、これまでの傾向に変化が見られますが、このあたりの背景を教育委員会はつかんでおられますか、あるいは保護者に尋ねられていないか、理由が分かれば聞かせていただきたいです。
- ：一人一人の聞き取りではないですけれども、学校と確認をしていくと、部活での希望、それと友達がどちらを選ぶかによって、それらも考えて、彼が行くなら自分もという傾向が生まれてきているのは、過去にはなかった空気だと聞いております。学校の安定感とかそういうことも含めて、選択の時には、水泳部とか野球部の当時の強さとかそのようなことも参考にはされたと聞いています
- ：保護者の立場としては、友達関係が結構多いのは、以前からありました。
- ：どちらかに行かせるというのは保護者の意向が強いところもあります。
- ：今回の諮問は、重複学区を変えるということを諮問、今後の在り方を諮問するという事は、現状のままでいくか、変えたほうがいいのかということ判断することですか。
- ：現状は、当分の間ということで、重複学区でやってきました。今年度、義務教育学校に府中学園が移行したので、途中からだ編入学という仕組みに変わってきます。第一中学校は併設型中学校なので、今まで通り旭小学校を卒業して、第一中学校に入学するということになります。それで、途中からの編入学で義務教育学校へ入っていただく環境が生まれてきたこともあり、今後の在り方について、答申いただけたらなど、お尋ねするところです。
- ：保護者にどうやって説明をするか、どういう意図があるか等、細かいものを明記して保護者に投げかけないと、このままだったら、今までのままでいい

ということになるのではないですか。

- : 今回、学校の制度を変えたタイミングと、17年度から10年くらい程経ったこと、そして子供の数が減っている中で、一番考えたのが広谷町の子供たちが中学校を選択する時に、友達同士の動きとか顔色を見て、苦しんではいかなという心の心配があります。今後、どういう通学区域にすれば、子供たちが苦しまずにすむか、どういう通学区域の在り方が子供たちのにとって良いかということの議論していただきたいと考え、こういう諮問文にさせていただいたところです。「広谷町は第一中の校区とするがどうか」と問えば、是か否は分かりやすいですけれども、子供たちがどんな思いでいるのか、あるいは、その子供たちの表情を見て、保護者、地域の歴史を知っている皆様が、様々な思いをめぐらせておることが、審議の対象になり、調査いただいて、そして、方向を示す、その方向について我々は、第一中に行ってほしいとか、府中学園してくれとか、はっきりどちらかに軸足をもっているわけではありません。皆様の声の中から最終的に我々が責任を持って結論を出しますが、声をいただきたいということが、今回の諮問であります。
- : 25年度から2つの学校に行く進学数が数字の変化に出てきて、様々なメリット、デメリットがあると思いますが、もっと情報として出してもらわないと、なかなかぼくらは説明できませんし、判断される方もどうしようかと思えます。
- : 広谷町の方はどのように捉えていますか。
- : 歴史的な意味合いがくずれるのではないかという意見、遠くに通わせるのは危ないという意見はあります。
- : 広谷は、町内会でまとまって旭小学校から第一中に行くほうがよいと思いません。
- : 府中学園のメリットは、義務教育学校になってから、どういうカリキュラムをつくっていくのがいいかという研究に入り、その中で、義務教育学校の機能を非常に活かしています。併設型のメリットは、小学生までの高揚感、小学校の6年生までやったというものをもって、今度は中1になったときに、それをベースにした1年生、2年生、3年生というのをつくり直そうというのが、今の第一中学校や上下中学校が取り組んでくれていることとなります。小学校で卒業して、中1に入ることは、府中学園とは違う意味での区切

りを上手に効果的に使っている、これが併設型のメリットであります。

- ：コミュニティ・スクールを進めていく中で、地域コミュニティが第一中に行った子供と府中学園に行った子供で行事がばらばら、一緒になる地域コミュニティが、せつかく地域で解決しようという中で、そういう弊害が出ているという話を聞きます。
- ：第一中に行く良さは、中学校でいったん人間関係をほぼリセットでき、新しい出会いが生まれます。ただ、旭学区ではない保護者からすれば、選べるのなら府中市全体でどこに行ってもいいよというシステムにしないとおかしいというのが保護者の率直な意見であります。
- ：もう少し地域の方のご意見をいただいて、多少のメリット、デメリットを伝えながら、意見を聞かせていただきたいです。
- ：広谷町の長い歴史の中で、25年度ぐらいから割合がすごく変わってきているのは、府中学園が小中一貫校になったからではなく、子供たちも人間関係をすごく重視しており、そこに左右されて迷っているのもあります。当然のごとく選んでいたところから、人間関係が子供たちに左右するように変わってきた中で、こういう数値になって表れているのかなと思います。併設型と義務教育学校と差はあるかもしれませんが、どちらも義務教育の学校に変わりはないので、どちらも子供たちに対して、ベストを尽くして、よりよい一貫教育にするところでは、どちらに行ってもメリットはあります。そういう中で選択を子供と保護者はしないといけないので、随分迷われる、重い選択をしておられると、子供や保護者は今のやり方の悩みの部分を聞かせていただきたいです。
- ：最終的には、子供がどうあるべきかと思います。親の意見と子供の意見が違くと子供にはメンタル的な負担になるので、子供の意見を尊重しようと思います。
- ：11月には決めないといけないのもあるので、どっちかに行くという形に改善したほうが、府中学園なら府中学園、第一中なら第一中のような形に決められれば、子供にとって、負担が少なくて済みます。それから、通学の距離の問題は、まだ遠くから通学している子供もいますので、そんなには問題ないと思います。

- ：メリット、デメリットは一長一短だと思います。やはり、保護者として子供たちの意見を重視していただきたいです。
- ：旭小学校の皆さん、保育所・幼稚園の子供の数が出ていますが、そのあたりから声を拾い上げるというアンケートをとることをまずやるということはどうでしょうか。
- ：第一中に行っている1年生から3年生とそれから府中学園の7年生から9年生までの広谷の子にも幅を広げてもらって、意見を聞かせてもらいたいです。
- ：保護者の意見を尊重するというところを重視すると、保護者が今どんな思いでいらっしゃるかというアンケートを作って、また次回にお返しできるようなことをつくらうと思います。